

2017年12月6日

調査レポート

実践女子大学 人間社会学部  
実践「ペルソナ」研究会

実践『ペルソナ』通信 Side-*Be* (No. B-62)  
「実践女子大生におけるカバンと財布の実態」に関する調査結果

実践女子大学人間社会学部 実践「ペルソナ」研究会では、「カバンと財布」についてのアンケート調査（実践『ペルソナ』通信（No. 62））の結果をもとに、実践女子大生が持つ「カバンと財布」について、さらに深く調査しました。

※実践『ペルソナ』通信 Side-*Be* とは、実践『ペルソナ』通信として公表された調査結果をもとに、写真観察を行い、さらに深く実態を考察した調査レポートです。

観察調査結果のポイント

私は、普段日常生活でブランドのカバンを持つ人は、ブランドの財布も持っている、そしてノーブランドのバッグを持つ人は、ノーブランドの財布と、ブランドの財布を持つ人両方がいると仮定した。

(1) 財布単体

長財布を持つ人と小財布を持つ人と2つに分かれた。普段持ち歩くカバンによって大きさを変えることもあるだろうが、多数の人が長財布であった。また、財布に関しては全てハイブランドであった。

(2) カバン単体

A4の書類が入る大きいショルダーカバンを持つ人が多かった。授業の数やその日の荷物の量によって大きさを変える人も多かった。ブランドに関しては、ハイブランドもあれば、ノーブランドもあった。

(3) カバンと財布

普段持ち歩くカバン、財布についてその日に必要なものに対して大きさを変えることがわかった。カバン、財布で同じブランドのものを使う人は少なく、用途によってカバン選び、財布選びをしていることもわかった。

調査担当

実践「ペルソナ」研究会

3年 牛上 穂南

調査結果

<長財布>





<小財布>



<ショルダーカバン>



<リュック>



<肩掛けカバン>







<バッグもカバンもハイブランドであるもの>



<ノーブランドまたはどちらかがハイブランド>

